

## 巻頭言

### 『クリオ』バックナンバー電子化にあたって

近年、欧米の学界を中心に、学術成果をインターネット公開するオープンアクセスの潮流が世界的に本格化しています。こうした状況に鑑み、弊誌のますますの普及と発展を祈念いたしまして、弊誌のバックナンバーに掲載された著作のうち、著作権の譲渡や公開許諾の得られた著作を対象に「東京大学学術機関リポジトリ」にてインターネット公開する運びとなりました。原則として、刊行から3年が経過した著作を対象としますが、著者の特別な希望などにより早期の電子化が好ましいと本会が判断した場合にはその限りではありません。

その例として、研究者を取り巻く最新の技術的環境について考察した今号の特集記事「歴史研究者のためのデジタル工具箱」は、刊行と同時に電子化することといたしました。この背景としては、2016年度日本西洋史学会にてデジタル・ヒューマニティーズのシンポジウムが開催され、昨今の情報通信技術の目覚ましい発展に伴い、人文学研究の環境にも変化が生じていることが国内でも認識されるようになってきていることが挙げられます。こうした時代に、歴史研究者がどのように電子情報を活用できるのか、最前線からその実用例を提供することに努めました。ぜひカラーの電子版でもご一読のうえ、関連リンクもご活用いただければ幸いです。

電子化事業で公開される研究成果については、昨今の研究状況に鑑みていささか古く感じられるものも含まれるかと思われませんが、いま一度西洋史学の議論を繙き、今後の学界発展の一助とすべく本事業を提案いたします。

今後とも、『クリオ』をご愛読いただければ幸甚に存じます。

---

2017 事業年度『クリオ』編集部  
電子化事業担当 小風尚樹  
代表 柴田隆功  
編集長 佐野大起